

22/3/4（金）特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議（第47回）
名古屋市民オンブズマンによるメモ

14:00

鈴木：はじめる 保存整備室長

佐治：参加していただきありがとう

Web会議にした

本丸から馬手など5題

来年度からの積み直し 基本計画について

12月中間報告 部会で詳細な議論をしてとりまとめた

表二の門、二之丸

水堀を活用した船なども

鈴木：出席者

瀬口・丸山・赤羽・小濱・高瀬・麓・三浦・藤井

文化庁渋谷・愛知県洲崎 文化財保護室・名古屋城

ただいまから報告 録音・録画はここまで

資料

☆参考資料 今年度現状変更 実績をまとめたものを構成員に配布

瀬口：本丸搦手事務局から

鈴木：前回できていなかった資料の説明

技師の久田から説明

久田：昨日資料

4.7.10.34 ページ 赤枠表現がわかりにくいところ 説明する

3.3 傾斜硬化面

別添資料

青囲い 修正

4 ページ 解体に至った経緯 ハラミだして空隙発生→解体

子どもが入れそうな空隙

10 ページ 傾斜硬化面 不十分→書いた

一部7ページに移した

14 ページ 円弧すべり解析

石垣が自立できない→解析できない

有限要素法解析 39 ページ
変状前の状況 16 ページ
ジオテキスタイル耐用年数は→114 年経過後も強度保てる試算
41 ページ 資料 21 逆石対策
堀の水面下 水を下げたから決定
現場任せにせずに決定
49 ページ 計画平面図

14:24

瀬口：質問意見は

小濱：なにをいまさらといわれるかも

資料 1 10 ページ 変状の原因 盛り土の劣化とは
14 ページから 安定化対策 背面盛り土に石灰を混合するとどうなるか
16 ページ 逆石実験 よくわからないが、逆石と上の石が密着しているか
角度を変えているのか スペーサーで調整？
上部の石材の重量はどれくらい？
摩擦と勾配 重力の水平成分が変わる

久田：3つある

- ・盛り土の劣化 「よくしまった土」粒子同士を結びつける化学成分
カルシウム、鉄分が存在
硬化面 浸透水の影響で水に溶けて流れ出す 粒子同士がぱさぱさに
粘着力が小さくなる 結果的に脆弱化
盛り土の劣化のメカニズム
- ・石灰混合 成分を補うことで土の強さを回復
短期的な強度 天和から 300 年 圧縮された
一旦崩したので、強度が弱くなったのではないかと懸念
- ・逆石実験 別添資料 2 2
上の石と下の石 密着
角度 θ を変えるのはスペーサーで
石の重さはぱっと出てこない 2-300 キロくらい
摩擦と変位の関係 図 4 のグラフ
縦軸 後ろから押す力
横軸 前に滑り出した
急激に立ち上がる 一旦動き出すと前に動き続ける
4 キロニュートン程度

case1 -5度 前側が下がる逆石状態 4キロニュートンくらい
case5 15度 8キロニュートンくらい

小濱：土 粘着力+摩擦 両方
砂質状になるから粘着力が落ちる、でいいか

久田：概ねそう

小濱：実験 重量がわからないと摩擦係数がわからない
2-3キロニュートン
滑りだす 6キロニュートン そんなにあるのか？
角度によって水平成分がプラスする
マイナス5度→15度 強度が強くなる
石垣を積み替える、という理解か

久田：そう

瀬口：他には

丸山：別添資料29 31
植栽まで書いてある
5番目 植栽計画をされる
盛り土 現況通り 植栽
イメージ図 現況？新植？
金城温古録 芝生は？
まだ植栽は言及しない方がいいのでは
新たに植えるのは問題があるのではないか

鈴木：イメージ図の植物 すべて植わっているもの
新植はない
くるみばやしと呼んでいる いっぱい生えている
・木を減らしたい
・都市公園整備 市民の方の憩いの場
全部切るわけではない

丸山：イメージ図は先行する
別添資料29 既存木は載っていない

鈴木：28 は既存木

丸山：伐採、樹木を減らす

図面にすると決まったように思える

29 円を描いた 切る予定などわかるように

植栽 城全体でどうするのか

芝生の木 適正か

安易に樹木を書かれると問題

鈴木：ありがとう

図面に樹木を書き込むと、イメージが一人歩き

29.31 修正

書いてある樹木の位置 直す

樹木を抜いて、「別途検討」の方がいいか

丸山：そのほうがいい

ここを先行するのはどうか

植栽管理計画ではやめに

瀬口：私もそう思う

石垣の上に植栽しない になりそう

31 ページの図 石垣の上にある

スタートが間違っている

書かない方がいい

樹木があると、透水性が必要

先程の説明と矛盾

雨水で地面が劣化する 粘りを無くす

樹木を植える→雨水を入れないと

芝生はあっても、透水性がないほうが

大きい木だと壊す

原則は石垣の上に木は植えない

方向でいい

丸山：全ての木を切る ではなく、現場現場で検討

石垣に影響をあたえないなら

金城温古録「松、桜など植えた」

瀬口：他は

小濱：安定化対策 有限要素法

背面の割栗層 粘着力が無い 滑り抵抗が小さい

割栗層を薄くした方が？

天和の積み直しを復元しよう→ジオテキスタイルを入れて

・材質はどんなもの

・16 ページ 敷金

上か横か？ 敷金の目的は？

鈴木：ジオテキスタイル 素材 合成樹脂を検討

詳細 設計で検討

敷金 どこか？16 ページ

写真6 敷金検出状況

間から検出

小濱：別添資料13 側面に敷金があるよう

上下面？

久田：そう

小濱：ずれどめ？

久田：角石の角度を微調整 挟み込んだのでは？

小濱：金属である必要は無い

久田：通常 石の角度の微調整 石

角石 平たい石なので数ミリ、1センチの石 加工 割れる

わざわざ金属製の備品を挟み込んだのではないかと推測

小濱：強度をあげるわけではない？

久田：そう

小濱：復元でいれるの？

久田：入れる予定

小濱：うまくいくのか

瀬口：微調整だけでなく、滑りを防止するため

小濱：エアーコネクターの役割も

瀬口：どの程度の大きさの金物にするか
置いてみて間に挟む感じ

西本：学芸員
置いてあるだけで、掘ってはいない

瀬口：穴はある？

西本：穴はない
鉄のさびが黒く見える

瀬口：影
高さがあるのでは

麓：敷金の影が映っている
右は位置がずれている
いずれにしても、掘っていない
石の角度調整
隅の石は整った算木積み
築石のような石を置けない
角度微調整の為敷金を置く
そのまま石を積むのなら、敷金を置く必要がある
新しく敷金を置く 鍛造 さびにくい鉄
今回使う敷金 ちゃんとした鍛造でないとさびる可能性

瀬口：左の写真は敷金が置いてある

小濱：横の滑りの摩擦係数が変わることはないか

久田：実験していないのでなんとも
ぴったりくっつけた場合 くさび形のもの 浮く状態に
そこで止まる可能性も

麓：石積み 面と面で接するわけではない
かなり加工しているとはいえ、散点 飛び出している部分で接している
摩擦係数が変わるものではない

瀬口：実験では、数カ所が接しているのではない？
面と面が接している？

久田：42 ページ
写真2のように、城郭石垣 花崗岩を2つ重ねた
点と点で接触 近い条件で実験した

三浦：敷金 寛永年間からはじまった
江戸城 大きい石 切り込みはぎで
角度の微調整 ほんの僅か 石では無理
金属でないと無理
石垣摩擦力 数カ所でしか接していない
強力なストッパー
敷金で浮いてもほとんど変わらない
入れざるを得ない
元の位置とずれる 到底無理
厚み、場所
いろんな厚みの敷金を用意しないと
江戸城 いろんなどころに入っている 桑の葉くらいも
別添 32.31 金城温古録 多聞櫓 おどい武者走り
20年前 発掘調査 確認したか？
復元しないといけない おどい武者走りはどうするか

西本：調査確認 痕跡は確認出来なかった

三浦：面的に掘った？断ち割りだけ？
崩れることも

西本：トレンチを1ヶ所 土層を確認
解体するところ

三浦：多聞櫓 掘削において全体で確認したか

西本：確認出来なかった

三浦：おどい武者走り 資料的制約
復元した方がいい？
重要なところ チェックした方がいい
武者走りがあるのは三の丸も
現在のおどい 多少残っているよう
最終的にどうするか 学術的に検討してから

西本：はい

瀬口：4-5年かかる 十分調べて
意識しないとわからない
「あるかもしれない」

西本：できる方法で確認する

15:08

瀬口：次
注意すべきこと、植栽、武者走り
積み直し基本計画をまとめて
武者走りを再度報告を
議題2 表二の門

鈴木：表二の門 雁木調査発掘調査
石垣部会で議論
学芸員から報告

大村：来年度発掘調査の説明
現状では土罫
昭和ガラス乾板写真でも土罫
大正4-8年くらい

15:19

瀬口：質問は

調査が進んできた感じがある

現状変更許可に関わること

資料 2-3 調査区 36 平米

できるだけ見つかった段階で調査区を縮小する
進めて

二之丸庭園発掘調査

鈴木：開始から 1 時間 20 分

瀬口：10 分休憩

3 時 30 分開始

15:30

瀬口：二之丸庭園の発掘調査

鈴木：学芸員から説明

学芸員：説明する

15:42

瀬口：質問は

今年の調査 玉石面が出てきた

小濱：余芳の園路は確認難しいか

学芸員：去年と今年調査した

近代以降の造成・攪乱が多い

江戸時代 残っていることが確認出来なかった

難しいかも知れない

小濱：復元は絵図がたよりか？

鈴木：発掘がこのような状況

絵図に頼らないといけない部分もおおい

瀬口：飛び石などが絵図
それ以外 ユークリッドではない

赤羽：3-2 ③
拡大3-4 北側→東 堀
暗渠との関わり 調査して

学芸員：注意して調査する

瀬口：現状変更許可が必要
手続きを進めて
議題4 水堀

15:48

鈴木：水堀
はじめてお話しする話題
上土井から

上土井：4-1 から 4-3 まで資料
名古屋城の魅力をはかる
船着き場を設置した上で事業者を公募
あらためて検討する
船着き場設置予定地
資料 4-1 今後の予定

瀬口：意見を

麓：保存活用計画 周遊ツアーが書かれている
資料 2 内容 名古屋城の魅力を紹介する
資料 4-2 船の運航経路を見ただけでは、内容に書かれていることが
効果的に実現するのか
もう少し計画を具体的に考えてから現状変更を検討を

上土井：おっしゃるとおり
ルートだと、石垣、隅櫓、天守 普段の視点とは違って楽しんで
どういった見せ方ができるのか

客に喜んでいただけるか考える
ルート 東の方 推移が浅くなる
また相談する

丸山：工程表はまだ決まっていない？

私自身 船で行ってどういう見せ場があるのか
担当者が行って写真を撮って
水質 水が悪い 水質改善 かなり重要ではないか
石垣 植栽管理がでてるが、樹木うっそうとしている
今回の事業でやってもらえるのか
総合的に考えて ルートを回ってどこに問題あるのか
報告して 客を呼ぶから水をきれいに
浚渫するのか

上土井：検討する

瀬口：他は

三浦：辰ノ口水路の遺構の前に船着き場を設置するのか

上土井：そう

三浦：極めて邪魔のような気がする
どういうものか
辰ノ口の景観に配慮していない
デッキの位置関係

上土井：船着き場のデッキ設置
辰ノ口遺構の前になる
なるべく史跡への影響を小さくしたい
大切な遺構 例えばデッキに降りると正面
検討しないと

瀬口：運行経路図 Uターン パイプが伸びている？

上土井：水道パイプが堀の中にある
接触しないように

瀬口：上を通っているのでは？

鈴木：工業用水を入れている
1ヶ所だけ給水なら水が濁る
いろんなところから水を入れている

瀬口：水質をよくするための施設 そういう理解か
近代の護岸 史跡の範囲に入っているのか

上土井：入っている

瀬口：一部が壊れたから近代の護岸にした
20年前に

上土井：そう

瀬口：たつのくち 遺構が残っている？
もう少し整理して全体整備検討会議に出して
水堀活用に反対があったというより、
はかるにあたって情報が少なすぎる
水の浄化 懸念が示された
玉石護岸にしてしまった その部分をどうするのか
残骸を活用した
護岸は浅くなっている もうちょっと出してもらわないと
堀底状況 変わっていると思う
堀そのものも見せる 書いてない
もう一回出してもらうわけにはいかないか

上土井：再度説明する

瀬口：部会でも同じようなことを言われる

鈴木：議題5 植栽管理計画について

上土井：議会でも要望
眺望・来城者への安全性 懸念

流れ 策定業務 詳細については皆さんに意見を
大まかな流れ
右側 調査対象案

藤井：現状調査 来年度
いつ位を年頭においているのか

上土井：令和5年度もしくは6年度に計画を取りまとめたい

赤羽：2目的 顕在化や安全性 保存に影響を与える植栽
除去して城跡にふさわしい風致を
城にふさわしいものはなにか 検討
5番 金城温古録 丁寧に調査する
もっと幅広くプラスマイナス両方を検討

鈴木：こちらとしても桜もきれい 秋は紅葉
市民に喜んでもらっている

丸山：ようやく樹木管理 方向性はいい
赤羽いわれた 目的がマイナスから入っている その通り
風致・風景をふさわしくする
もうちょっと大きく書いて、それには何がいるか
毀損は困る
風景を作る 木を切れればいいではなく、どういう空間を作るか
いろんなことを考える
行政的 危険なやつを最初に言われるからさびしい
現状把握調査 何を調査するのか 調査項目
1年間でできるのか 管理のやり方を大幅に変えないと
いままでやってきた維持管理システム どうしていたか
松の手入れ一生懸命やっている 金がかかる
・日常管理
・事業化しないといけない管理
頭出し 期待している

上土井：おっしゃるとおり幅広く 都市公園
市民に親しまれている公園

瀬口：目的の2行 いらない
丸山委員がいわれた
目的「ふさわしい風致を整えるため」
調査「2行に書いてあること」
管理をどうするか 4 中身項目
5 策定までの流れ
作り直して検討し直して
調査対象案 眺望・外来種 別がいい 違うこと
近世以降の樹木
眺望は別

上土井：参考にする

瀬口：以上で議事は終わり

16:23

鈴木：ありがとう
最後 報告題 二之丸庭園 余芳検討状況
「言ってくれるな」ではない
中間地点

中野：余芳 7月にはかった
庭園部会・建造物部会
文化庁への第1回目の報告案
ページ数 60 ページ

鈴木：何か意見があれば
ご不明な点 改善点があれば後日でもいいから教えて

赤羽：目次
1 整備事業
2 概要
逆ではないか
本当は第2章が先
だから整備するんだ

鈴木：「整備事業の概要」タイトルが悪いのかも

大きなところから小さいところへ

赤羽：第2章の方が大きなテーマではないか

鈴木：第2章 全体の整備計画

赤羽：扱っている

どう整備するかが1章に書いてある

2章の方が大きい方針

藤井：今の意見に賛成

タイトルが余芳移築再建事業

「余芳」とはなにか書かないと

組み込まれているような印象

20ページ 文政年間に云々 最初に書かないと

なんの計画？

2章までなににしているかわからない

そもそもを書いて

工夫しては

鈴木：前書きがない

本来、「余芳とはなにか」

はじめて読むとなにもない

参考にする

瀬口：今日文化財の渋谷さんいる 一言

鈴木：この件はよいか

渋谷主任、何かコメントがあれば

渋谷：昨年7月 山下の後任で着任

はじめて参加した

何度か名古屋城を訪問した

今日聴いた 名古屋城跡は多くの資料が残っている

貴重な史跡 痛感

きめ細かく見ていただければ 見落とすことも先生の指摘で

見落とすしなくできる

整備検討会議 ありがたく思っている
どうやってうまく整備するか 一つ一つきめ細かく会議を進める
きめ細かさを 事務局としては大変かもしれない
よりよい全体整備が進められれば
年数がたつ計画 いくつかあるが一つ一つクリアして
ありがとう

鈴木：今後とも指導よろしく
長時間にわたりありがとう
40分超過した
意見は活かしていく
愛知県まん延防止 3/21まで
現場をご案内できていない
季候もよくなっていく 現地ご案内したい
その節にはよろしく
終わる

16：40